

論文要旨

「子どものやせ願望と痩身理想の内面化」

山崎洋子

近年、小学生高学年や中学生といった早い段階で、肥満でないにもかかわらずやせたいと願い、減量をおこなう者が多いとの報告がなされている。低年齢でのやせ願望や減量行動は、その時点だけでなく将来の健康を損なうリスク要因となり得る。多くの子どもがやせたいと願っているということは、子どもにおける、痩身を理想とする価値観（痩身理想）の内面化の広まりを示唆する。本研究は、子どものやせ願望のメカニズムを明らかにすることを目的とし、痩身理想によってやせ願望を説明する **Sociocultural Theory Model of Body Image** を理論的視座として、小学生高学年および中学生を対象に4つの実証的研究をおこなった。

論文は6章で構成されている。第1章で、本論文の概要および論文全体の構成を示した。

第2章では、研究の社会的背景について概観した。最初に、小学生高学年と中学生のやせ願望と減量行動の現状について、性別および国別比較を含めて紹介した。続いて、低年齢でのやせ願望や減量行動が引き起こす深刻な健康問題についてまとめ、海外における予防的介入例や介入の効果研究について紹介した。最後に、日本における予防的介入の現状について考察し、子どものやせ願望の基礎的な研究の必要性を示した。

第3章において、やせ願望研究の理論的な枠組みである身体像の理論を概観した。身体像の定義、関連する概念を説明後、代表的な身体像の理論を紹介した。次に、本研究の理論的視座として、**Sociocultural Theory Model of Body Image** を援用すること、およびその理由を述べた。続いて、**Sociocultural Theory Model of Body Image** について先行研究をレビューし、子どものやせ願望や身体不満の形成に、社会的要因の中でも母親とメディアが強く影響することを導出した。また、痩身理想の内面化はやせ願望の重要な要因としているのにもかかわらず、痩身理想の内面化を仮説モデルに含めている研究が少ないことを指摘した。最後に、日本において子どもの身体像についての先行研究が僅少であることに触れ、本研究の必要性を示した。

第4章では、子どものやせ願望のメカニズムを痩身理想の内面化に焦点を当てて明らかにするという本研究の目的を明示した。本研究では、**Sociocultural Theory Model of Body Image** に基づき、社会的要因とやせ願望を媒介する要因として痩身理想の内面化を含めた仮説モデルを作成した。さらに、社会的要因として母親とメディアを取り上げること、母親と子どもの両方の痩身理想の内面化を測定すること、小学生高学年と中学生だけでなくその母親も対象とするという本研究の独自性について説明した。

第5章で、本研究のために実施した調査研究（研究1から研究4）について報告した。研究1と研究2は母親の痩身理想の内面化、体重や体型に関する母親の態度や行動、子どもの痩身理想の内面化、および子どものやせ願望との関連についての検討であった。研究3は母親と娘の痩身理想の内面化の関連性

に影響を及ぼす要因を検討した。研究4では、子どものメディア利用と子どもの瘦身理想の内面化およびやせ願望との関連について検討した。

研究1では、小学生高学年の男女373名とその母親を対象に、母親の瘦身理想の内面化と子どもの体重や体型に対する母親の態度・行動、子どものやせ願望の関連について検討した。女子のみ、母親の瘦身理想の内面化は子どもの体重や体型に対する母親の態度・行動に関連することが明らかになった。研究2は、中学生の男女284名とその母親を対象に、母親の瘦身理想の内面化と子どもの体重や体型に対する態度・行動、子どもの瘦身理想の内面化の関連を検討した。研究1と同様、女子のみ、母親の瘦身理想の内面化は子どもの体重や体型に対する態度に関連し、その母親の態度や行動は子どもの瘦身理想の内面化に影響を及ぼしていた。

研究3では、母親と娘の瘦身理想の内面化の関連に対する、子どもの身体的成熟および母子関係の質の変化の影響についての検討をおこなった。対象は小学校高学年の女子173名とその母親であった。身体成熟度は、母親と娘の瘦身理想の内面化の関連性には有意な影響を与えていなかったが、子どもの瘦身理想の内面化を有意に予測した。一方、母子関係の質の変化は、従来の親子関係である「養育する—養育される」関係よりも友人関係のような「個人—個人」関係に変化しているほど、母親の瘦身理想の内面化と娘の瘦身理想の関連性をより強化した。

研究4は、メディア利用が子どもの瘦身理想の内面化に与える影響について検討した。女子においてのみ、テレビの視聴時間の長さが瘦身理想の内面化の程度を高めていた。しかし、男子においては、メディア利用は瘦身理想の内面化に関連しなかった。

第6章において、研究1から4の結果を総括し、考察をおこなった。本研究の結果から、**Sociocultural Theory Model of Body Image**は女子のやせ願望の理解に有効なモデルであるが、男子の場合には有効とはいえないという結論を示した。次いで、母親と子どもの両方の瘦身理想の内面化を測定したことによる本研究の意義を説明した。最後に、今後の展望として、女子とは異なる枠組みでの男子の身体像研究の必要性について論じた。